

①事業名	【2】異年齢子ども体験交流活動推進事業（地域教育力再生プラン）	
②主管課及び関係課（課長名）	（主管課）生涯学習政策局生涯学習推進課（課長：栗原 靖）	
③施策目標及び達成目標	施策目標 1-2 地域の教育力の向上 達成目標 1-2-8 異なる年齢や異学年の子ども同士の交流を促進することにより、子どもたちの社会性の涵養を図る。	
④事業の概要	近年の少子化、核家族化に伴い、これまでは子ども同士の集団活動や異年齢との交流活動等を通じて、日常生活の中で自然に子どもたちが身につけてきた対人関係能力や社会性、規範意識、基本的な生活習慣などを、十分に身に付ける機会が減少していると言われている。 このため、長期休業日や週末等の活用により、地域の大人たちの協力のもと、異なる年齢や異学年の子どもたち同士が、様々な集団活動に参加し、その社会性の涵養等を図る取組みを推進する。 事業形態：委託（民間団体等）	
⑤予算額及び事業開始年度	平成18年度概算要求額：331百万円 事業開始年度：平成18年度	
⑥事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑦得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得ようとする効果	地域の大人たちの積極的な参加を得て、子どもたちの異年齢・異学年交流を推進し、子ども同士の集団活動の活性化、子どもたちの対人関係能力の育成（社会性の涵養）を図ることにより、子供同士はもちろんのこと、子どもと地域の大人の交流が図られるとともに、大人同士の結びつきが強化されるなど、地域住民の交流性や共同性が高められ、新しい地域コミュニティづくりへの貢献が顕著となり、また地域の人材が育成されることなどにより地域の教育力の向上に資することが期待される。	⑨達成年度 平成23年度
⑩必要性	近年の少子化、核家族化に伴い、これまでは子ども同士の集団活動や異年齢との交流活動等を通じて、日常生活の中で自然に、子どもたちが身につけてきた子どもの対人関係能力や社会性、規範意識、基本的な生活習慣などを育む機会が減少していると言われている。 この対人関係能力や社会性などの低下・減少は、子どものその後の人生においても、定職に就いて働き続けることが出来なかったり、安易な触法行為を行うことなどに少なからず影響を与えていることが十分予想される場所である。 このため、長期休業日や週末等の活用により、地域の大人たちの協力のもと、異なる年齢や異学年の子どもたち同士が、様々な集団活動に参加し、その社会性の涵養等を図る取組みを国として一定期間、日本全域に普及するように推進する必要がある。 この地域の子どもと大人の絆づくりを通して、施策目標（地域の教育力の向上）への達成度は一層高まることとなり、本事業の実施は妥当なものと思われる。	
⑪効率性	本事業については、地域の実情に即した弾力的で効率的な事業の実施を行うため、行政関係者の他、学校関係者、PTA関係者、保護者、青少年団体関係者など、地域社会を形成する様々な立場の方々と構成される企画委員会に対し事業を委託する予定であり、各者の連携による必要最小限の経費支出によって地域の特色を活かした事業の実施が見込まれる。 具体的には、長期休業日や週末等の活用により、異なる年齢や異学年の子どもたち同士が、主に在住する地域以外の場所において、様々な集団活動に参加し、その社会性の涵養を図るものである。 このため、地域の大人たちを対象とした研修等も実施することにより、在住する地域外での活動や宿泊をともなった集団生活を実施するために必要なノウハウについて知識を得た地域人材の育成を図る。 全国141ヶ所（47都道府県×3ヶ所）	

<p>⑫ 想定できる代替手段との比較考量</p>	<p>本事業のほかに、異年齢・異学年交流が実施される事業として、児童生徒の社会性や豊かな人間性を育むために、小学校段階から自然体験などの体験活動を実施する「豊かな体験活動推進事業」や、青少年が自立した人間として成長するために、青少年の主体性・社会性を育む社会体験、自然体験等の体験活動の機会を充実させる「青少年の自立支援事業」が考えられる。</p> <p>いずれの事業も、様々な体験活動を通して、子どもたちの社会性を育もうとするものであるが、「異年齢・異学年交流推進事業」については、地域の実情に即して効率的で柔軟性のある事業を推進するために、行政関係者に加えて、PTA、青少年団体関係者など幅広い地域の大人たちの積極的な参画を得ることで、子どもたちの社会性の涵養を図るとともに、地域コミュニティの充実を図ろうとするものである。</p> <p>本事業を推進することにより、地域の子どもと大人の絆、大人同士の絆づくりの気運が醸成され、効果が効率的に得られるものと判断。</p>
<p>⑬ 有効性</p> <p>指標・参考指標</p> <p>効果の把握の仕方 (検証の手順)</p> <p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業実施前と後における地域の子どもと大人の意識の変化 ・ 年間あたりの事業実施回数と、1回あたりの事業への参加者・関係者数の増加 ・ 地域の大人等を対象とした研修実施地域数、研修参加人数 <p>本事業実施地域において、実施前と後における子どもと大人の変化及び本事業に対する意識調査等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間あたりの事業実施回数と、1回あたりの事業への参加者・関係者数の増加により判断することが可能 ・ 前述の意識調査の結果により、判断することが可能 <p>【得ようとする効果の達成見込み】</p> <p>本事業では、全国的に事業を展開し、異年齢・異学年の子どもたち同士が様々な集団活動に参加する機会を設けることにより、子どもたちの社会性の涵養を図られるなどの効果を見込んでいる。</p> <p>本事業実施地域において実施を予定している意識調査から得られる結果により判断することができる。</p>
<p>⑭ 公平性、優先性</p>	<p>[政策の特性に応じて、必要により評価]</p>
<p>⑮ 評価に用いたデータ・情報・外部評価等</p>	
<p>⑯ 備考</p>	

異年齢子ども体験交流活動推進事業

新規
H18要求 331百万円

少子化、核家族化などに伴い、異年齢の子ども同士や子どもと大人との交流の機会が減少



長期休業日や週末等の活用により、地域の大人たちの協力のもと、異年齢の子どもたち同士が、様々な集団活動に参加し、その社会性の涵養を図る。

- 全国141ヶ所において年間20日回実施
- ・47都道府県×3小学校区

考えられる実施内容

- ・週末や祝祭日等を活用した異年齢集団による**社会体験**
農業体験(田植え、稲刈り、芋掘り、乳搾り等)、生活体験(炊事、洗濯、清掃等)
郷土体験(郷土工芸、郷土食づくり等)、地域行事体験(夏祭り、餅つき体験、地域清掃活動等)
- ・働く人たちの姿を直接見聞きし、実際に仕事を体験するなどの**職業体験**
- ・地域の宿泊可能施設(公民館、青少年施設等)からの通学合宿を通じた**交流体験**



年少者に対するやさしさ、年長者に対する敬いの心、お互い守るべきルールの修得、自分の気持ちを伝える能力など、子どもの社会性の涵養を図る。